

「市立幼稚園・保育所のあり方について」に関する説明会議事録

日 時	平成29年2月20日（月）	9：00～10：30
場 所	朝日ヶ丘幼稚園	
出 席 者	教育長 教育委員会管理部長 教育委員会管理部管理課長 教育委員会学校教育部主幹 こども・健康部長	福岡 憲助 岸田 太 山川 範 中塚 景子 三井 幸裕
事 務 局	教育委員会管理部管理課	
参 加 者 数	30人	

1 次第

- (1) 開会
- (2) 説明
- (3) 質疑応答
- (4) 閉会

2 配布資料

当日配布資料

3 議事録

(福岡教育長) 芦屋市の幼稚園のあり方につきましては、数年前から協議をしてまいりました。そして昨年2月に学校教育審議会を立ち上げ、昨年11月24日に審議会より答申をいただきました。

2月13日には、本日ご説明させていただく計画を市議会へ報告し、新聞にも報道されたところです。皆様は、幼稚園がどうなるのかということが、ご心配であると思います。

この計画を皆様にご説明させていただくため、まずは幼稚園の保護者の皆様を対象として、今週は4園、来週は3園で説明会を実施してまいります。さらに、地域の皆様への説明会も順次実施致します。また、4月には市長トークがありますので、この計画についてご意見をお聞かせいただきたいと思いますと思っております。

本日は、皆様のご意見を十分に聞かせていただきたいと思いますと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(事務局岸田) それでは、「市立幼稚園・保育所のあり方について」の説明をさせていただきます。特に幼稚園のところを中心に説明いたします。

平成 28 年 3 月議会において、芦屋市長が施政方針の中で、幼稚園と保育所については、市全体の教育と保育のニーズへ対応するために、公立幼稚園と保育所の適正な規模について検討してまいりますということを議会に示されました。

それを踏まえ、有識者や保護者の代表や学校の先生方や関係者に集まっていたいただき、総勢 10 人の委員からなる学校教育審議会を立ち上げました。今、芦屋市立幼稚園 8 園においては、29 年度の見込みでは、定員に対する子どもの数が、いよいよ 4 割を切る状況です。幼稚園の数はどれぐらいが適正なのかということについて、その学校教育審議会ですら計 6 回審議をいただき、昨年 11 月に答申をいただいたところです。

その答申の中身ですが、まず 1 つ目は、ニーズや今後の子どもの園児数の将来推計などを考えると、8 園は見直さなければならないという結論です。では、何園が妥当なのかということについては、中学校圏域で考え、各圏域に 1 から 2 園程度が適正であるという答申となっております。

その答申を受けて、我々教育委員会と、保育所を担当するこども・健康部とでさまざまな形を協議いたしました結果が、今日お示ししている幼稚園と保育所の統廃合の案です。

A 3 の資料には、市全体の案が示されています。山手圏域では、岩園幼稚園、朝日ヶ丘幼稚園、西山幼稚園の 3 園がありますが、圏域ごとに 1 から 2 園が適正であるということで、どこを統廃合するのかというのを検討してまいりました。例えば 80 人から 90 人の園児がいる幼稚園と、40 人から 50 人の園児の幼稚園を比較して、どこを統廃合するかと考えたときに、朝日ヶ丘幼稚園を岩園幼稚園に統廃合することが、一番望ましいのではないかと結論になりました。朝日ヶ丘幼稚園につきましては、平成 32 年 4 月に岩園幼稚園に統廃合させていただくというのが、まず 1 点目です。

次に、精道幼稚園につきましては、隣に精道保育所がありますので統合して、精道の認定こども園にするというのが 2 つ目です。

3 つ目は、宮川幼稚園と伊勢幼稚園について、新浜保育所と 2 園 1 所を統合して、西蔵町の市営住宅跡地に認定こども園を設置するという案です。

この認定こども園は、精道についても、西蔵についても、芦屋市立で考えております。

したがって、幼稚園として残るのが、岩園幼稚園と西山幼稚園、そして小槌幼稚園と潮見幼稚園の 4 園になるというのが、このたびの市全体を考えた統廃合案です。

統廃合案の目的は、8 園の幼稚園の子どもの受け入れ可能数が 1,500 人程度である中で、平成 29 年度の幼稚園の入園者数の見込み数が 500 人ちょ

つととなり、利用率が3割近くになってくるという状況があるためです。公共施設の有効活用も含めて、幼稚園の施設数を適正な数に再編成すべきではないかというのが1点目です。また、2点目としては、市全体の喫緊の課題である待機児童対策です。今年2月現在の待機児童数が357人となっています。今回の統廃合案により、保育所の受け入れ定員の増員を374人と見込んでおりますので、この統廃合案では、待機児童対策もセットで取り組んでいくということです。

この朝日ヶ丘幼稚園の跡地がどうなるのかということですが、今現在の段階で、こういう活用をしますということまでは、まだお示しできません。山手地域には、就学前の子どもたちを収容する施設や子どもの居場所等の施設がありませんので、今後、皆さんのご意見も伺いながら、この跡地をどうするのかということについては、時間をかけて考えていきたいと思っています。

朝日ヶ丘幼稚園は平成32年3月末で統廃合となりますので、今後の流れとしては、今年の10月は通常どおり4歳児の募集を行います。来年の平成30年10月には、4歳児の募集の停止することになります。

このため、今年の10月の募集の際に、来年は下の4歳児のお子さんが入園されないことをご説明し、了解していただいた上で、入園していただくこととなります。

今回の統廃合案についての説明は以上です。忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局山川) それでは、皆様からのご意見やご質問をお受けさせていただき時間とさせていただきます。

(保護者) 岩園幼稚園には入園を希望した全員が入れるのですか。

(事務局岸田) 全員入っていただけます。広さは十分にありますので、皆さんに入っていただきたいと思っています。

(保護者) では、朝日ヶ丘幼稚園の統廃合を見越して、園舎を建て替えたのですか。

(事務局岸田) 幼稚園の全体のあり方を考える審議会は、平成28年2月に立ち上がりました。岩園幼稚園の建て替えの決定はそれ以前になされ、既に工事も行っておりましたので、この統廃合を見越してということではありません。岩園幼稚園は、老朽化が著しかったため、幼稚園として建て替えたということです。

(保護者) 幼稚園の所管は教育委員会で、保育所はこども課だと思いましたが、認定こども園になれば、どうなるのでしょうか。また、幼稚園教諭と保育士をどのような体制で配置する予定でしょうか。

(事務局岸田) 国においては、幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省です。国では、

これまで縦割りでやってきたものを合体して、認定こども園は内閣府が所管することとなっています。

同じように、市における所管も法律で決まっており、0歳から5歳までのお子さんを預かりますので、基本的には市長部局で所管するという事になっています。

幼保連携型認定こども園は、学校施設であり、教育施設でもあり、かつ児童福祉施設でもあります。したがって、幼保連携型の認定こども園になれば、先生は保育教諭という形になり、要は保育士と幼児教育の免許両方を持っておられる方が基本的に保育することになります。

もう1つ、建物の中で、幼稚園部門と保育所部門を分けるというのではなく、基本的には、これまで幼稚園に来ていた子も、保育所に来ていた子も、同じように学び保育を受ける施設であるということです。

保育所のお子さんは、朝は7時半頃に登園され、9時頃には幼稚園のお子さんが登園します。混合のクラス編制により、登園後は、どのお子さんも同じように教育や保育を受けることとなります。幼稚園のお子さんは2時や2時半にお帰りになり、保育所のお子さんはそのまま6時、7時頃まで保育を受けるという流れです。

(保 護 者) 保育所では、収入に応じた保育料となっていて、給食もあります。認定こども園になると、給食になるのでしょうか。そうすると、幼稚園の保育料も高くなるのですか。

(事務局岸田) 認定こども園になれば、給食になります。現在、保育料については、幼稚園も保育所も収入に応じて決定される仕組みに変わっています。認定こども園になっても保育料が変わることはありません。

(保 護 者) お弁当はどうなるのですか。

(事務局岸田) 給食費は、保育料とは別にいただくこととなります。

また預かり保育も、現在は4時半までですが、これがもし6時や7時までということになれば、料金は400円ということではなくて、1,000円ぐらいになることもあるかもしれません。時間や料金のことは今後検討していきます。

(保 護 者) 資料では、山手圏域では、待機児童が112人から来年度60人に減っていますが、保育所の増設がないにも関わらず、どうして50人も待機児童が減るのでしょうか。

(事務局三井) 既に来年度の保育所の入所決定を行っています。

また、山手圏域の方でも、精道圏域の保育所に行かれていますので、平成29年4月の実質見込みではこのようになります。

(保 護 者) 市全体で見れば、保育所などの増設で定員が370名増えています、山

手圏域だけで見ると、増設見込みがゼロで、その分についての待機児童は60人います。この60人に関しては、どうお考えなのでしょう。

(事務局三井) 基本的に山手圏域でも、今回のタイミングで整備をしたいと考え、いろいろ検討させていただきました。しかし、保育所や認定こども園をつくる場合には、大きな土地が必要となるという課題がありました。

今後、この計画が進みますと、最終的に待機児童よりも施設の受け入れ定員が17人ぐらい多くなると見込んでおります。しかし、最近では、他市でも施設ができてくると、入所希望の方が増えてくる傾向があります。

現に、芦屋市でも10年ぐらいで定員数が倍に増えていますが、待機児童がまだかなりいます。次の支援事業計画が32年からスタートすることになりますが、その際に、その時点の待機児童の状況等を含めて検討していきたいと考えています

(保護者) 東山町の一番山手の方に住んでいますが、岩園幼稚園に通うことになる、かなり距離があります。坂もかなりありますので、例えば雨の日に、下の子のベビーカーを押して通園するとなると、とても負担になります。通園方法に関して、幅を広げていくお考えはありますでしょうか。

(事務局岸田) 現在、通園方法は、自転車もご利用いただけるようにしておりますし、当然、岩園幼稚園にも駐輪場は整備したいと思っています。

(保護者) バスを出してほしいとまでは言いませんが、例えば遠方に限っては車登園を認めるようなお考えがあるかをお聞きしたいです。

(事務局岸田) まずは、岩園幼稚園から送迎バスというのは、今のところは考えておりません。

遠方からの車登園につきましては、岩園幼稚園の園舎の前に、車を横付けするというのは、スペースもありませんし、非常に危険です。例えば雨の日の場合に、岩園幼稚園の近くの有料駐車場に停めていただいて、登園していただくということまでを制限するものではないと考えております

(保護者) この計画では、平成32年までに待機児童を解消するとしていますが、保育所の待機児童はどんどん増えていくのは目に見えていると思います。この案で本当に待機児童が解消できるのでしょうか。

(事務局三井) 受け入れ量の拡大というのは、平成15年ぐらいから実施しており、当時550人ぐらいの受け入れ人数だったものが、今では1,200人を超える人数になっています。

先ほども申し上げましたように、最近の傾向を見ておきますと、施設ができて、働き出したり、引っ越して来られたりすることにより、待機児童数が増えてくる傾向があります。このため、この計画を実施して終了ではなく、その状況を見て適宜判断をしていきたいと考えています。

(保 護 者) 保育所は、お昼寝をしますが、幼稚園にはお昼寝がありません。認定こども園ではそれを同じクラスで進めていくということですか。

(事務局三井) 午前中については、例えば保育所部分のクラス、幼稚園部分のクラスということではなく、混合のクラスの中で、子どもたちは一緒に学んだり、遊んだりします。

午睡については、幼稚園のお子さんが帰った後になります。幼稚園では午睡をしていませんので、給食を食べていただいたら、帰っていただくという形になると考えております。

(保 護 者) 預かり保育を利用する場合のお昼寝はどうなるのでしょうか。幼稚園の預かり保育でも、夏休み以外はお昼寝がありません。

(事務局中塚) 幼稚園の預かり保育でも、夏場にはプール遊びもあり、身体が疲れますので、そういう場合には、午睡もしています。お子さんによっては眠くなる子もいますので、お子さんの状況を見ながら判断をしています。認定こども園ではどういう形にするのがいいのかを考えていきたいと思っています。

(保 護 者) 夏休みや冬休みについては、保育所では保育を行っていますが、幼稚園だけがお休みになるのでしょうか。

(事務局三井) 認定こども園で幼稚園部門は1号認定子ども、保育所の3歳児以上は2号認定子どもとありますが、基本的に1号認定子どもには夏休みがあります。ただ、そこに預かり保育を組み合わせながら、一緒に取り組みたいと考えています。

(保 護 者) 公立の幼稚園はどうして2年制なのでしょう。3年制になったりはしないのでしょうか。

(事務局岸田) 3年保育については、これまでも保護者の皆様からご要望いただいておりますが、27年度から5年間の計画として芦屋市の子ども・子育て支援事業計画というものがあり、この計画の中で、保護者の皆様からご要望のある3年保育については、待機児童の対策とセットで、認定こども園を整備することによって進めていきたいと思います。

この計画は、市が勝手に決めたというものではなく、子ども・子育て会議という大きな会議を立ち上げて、保護者の皆さんやPTAの皆さんなどに委員になっていただいて、1年間論議した結果、出来上がったものです。この計画に基づいて、芦屋市も、認定こども園の整備に力を入れているところです。

(保 護 者) 幼稚園は、PTA役員というのがありますが、認定こども園でPTAをそのまま行う場合、幼稚園として通わせている親に、すごく負担がかかることはないでしょうか。

(事務局岸田) 今後の役員などの持ち方につきましては、どういう形がいいのかということ、保護者の方のご意見を聞きながら考えていきたいと思っております。

(保護者) いずれ岩園保育所と岩園幼稚園が認定こども園になっていくという計画はあるのでしょうか。

(事務局岸田) 残る市立の4つの幼稚園については、今の段階では、幼稚園として残していきたいと考えております。

岩園幼稚園についても、幼稚園として残していきたいと思っています。距離が遠くなるのは申し訳ありませんが、建物もきれいになりますし、園庭も夏になれば緑の芝生が出てくると思いますので、ぜひ岩園幼稚園にお入りいただきたいと思っています。

ただ、将来の子どもの数や皆様の認定こども園のご要望を考慮の上、今後、判断する場面が出てくるかもしれませんが、現在のところは、幼稚園として残していきます。

(保護者) 岩園幼稚園のPRをされていますが、実際問題として、山手地域では私立の幼稚園に行かれる方が多いと聞いています。そういう方たちを岩園幼稚園に呼び込めるように、市も、もっと努力されるべきだと思います。

(事務局岸田) まさにご指摘のとおりで、岩園幼稚園のPRも含めて、残る4園の幼稚園については、保護者の皆さんにお選びいただけるような幼稚園にしたいと考えています。さまざまな取り組みをしたいと思っています。

(保護者) こども園の園児の募集の方法についてお尋ねします。保育所と幼稚園とでは、申し込み方法が違うと思いますが、こども園になった場合には、申し込み方法が違っていると、定員や倍率に差が出てくると思います。申し込み方法にはどのような違いがあるのでしょうか。

(事務局三井) 保育所では、希望する施設を書いてもらい、ご家庭の状況に応じて優先順位を付け、保育の必要度が高い方から入っていただく形にしています。

認定こども園になりますと、1号認定子どもの場合は、例えば抽選や面接であったり、先着順といった公平な形をとるということを国が示しています。

今後、認定こども園は市長部局で所管することになりますので、直接、園で申し込んでいただくことになるのか、子育て推進課で申し込んでいただくことになるのかは、まだ決定しておりませんが、皆さんがやりやすい形にしていきたいと考えております。

(事務局岸田) 説明会は、今後、時間帯は夜になりますが集会所でも実施する予定としておりますし、説明会でなくとも、この案について聞きたいことがありましたら、直接、教育委員会にお電話いただいたり、お越しいただければ、お答えはさせていただきます。いつでもご遠慮なくご質問いただければと

思います。

(保 護 者) 認定こども園に、幼稚園や保育所の子ども達が集まってくることになる
と、近隣の方の反対などがあって、なかなか計画が進まないということが
あるかもしれません。今回の計画については、ご近所の皆様の了解を既に
得ていて、決定した状態でのお話なのでしょうか。

(事務局三井) この計画につきましては、教育委員会と市で協議をして、幼稚園と保育
所のあり方としては、現時点ではこの形が一番望ましいと判断したもので
す。13日に市議会に説明をさせていただいた上で、まず、保護者の方に
ご説明させていただいております。

今後は、例えば3月7日に朝日ヶ丘集会所で予定しておりますが、地元
の方への説明会も実施していく予定をしております。この計画を市として
進めていきたいと、説明をしていきながら、ご理解を得ていきたいと考
えています。

この計画では、認定こども園を作ることや認可保育所を誘致すること
については、現に今まだ空き地ではなく、既存の施設がある状況ですので、
地元の方への説明も含めて、これからであると考えています。ただ、市と
してはこの計画を進めていきたいと思っております。

(保 護 者) 朝日ヶ丘幼稚園が廃園となるということですが、朝日ヶ丘小学校と幼稚
園の連携が、今盛んに行われていますが、そういったことは今後も継続し
ていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(事務局中塚) 去年、幼稚園、保育所と小学校が、もっとつながりが深まるよ
うということで、接続期カリキュラムというものを作りました。朝日ヶ丘幼稚園
と朝日ヶ丘小学校は、本当によく交流をしてくださっているところで、岩
園幼稚園と統合しましても、岩園小学校や朝日ヶ丘小学校の両方と交流は
行っています。例えば、小槌幼稚園は3つの小学校に別れますが、それ
ぞれの小学校に行く機会を持っております。スムーズに小学校生活が進め
られるように、これからもつながりは大事にしていきたいと思っております。

(保 護 者) 芝生の問題ですが、芦屋市も何年か前に、小学校などで、芝生をつくる
ことになり、朝日ヶ丘小学校でも芝生が小運動場にできましたが、現在は
草がぼうぼうに生えたり、新芽が出てこずに間があいているという状態
です。幼稚園の場合には、芝生を子どもたちに走らせるわけですので、芝
生の成長を促すような方法は考えられませんか。

(事務局岸田) そうですね。以前に県の補助事業があり、いろいろな幼稚園で芝生化に
一度取り組んだことがありました。しかし、園庭を芝生にしても、ごろご
ろ転がったり、竹馬をしたりすると、やはり芝生がだんだん傷んくこと

になります。

ただ、今回は、岩園幼稚園が何十年ぶりに建て替えるということで、建て替えを実施するなら、是非きれいなものにしたいという気持ちがあり、今回、芝生化をしました。芝生は大切にしたいと思っていますが、あまりに大切にすぎると、園庭で子どもが遊べないというのは本末転倒ですので、できるだけきれいな形で保っていきたいとは思いますが、まずは、子どもたちがそこで伸び伸びと寝っ転がって遊べる環境をつくっていきたいと考えています。

(保 護 者) 芝刈りをするなど、芝生の整備を芦屋市が責任を持ってやってほしいと思います。

(事務局山川) 本日は貴重なご意見をありがとうございました。これもちまして、説明会を終わらせていただきます。

以 上